

透析開始・終了時の手指衛生遵守率向上に向けた取り組み 浄化センターリンクナースとしての啓発活動

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮崎沙弥香

【はじめに】A病院は透析医療を中心とした腎疾患専門施設である。透析患者は免疫力が低下するため、感染症には特に注意が必要である。A病院における手指衛生へのアプローチは年1回蛍光塗料を用いた手洗いチェックと、月1回擦式手指消毒薬の個人使用量をグラフ化し掲示するのみであった。スタッフの手洗いに対する意識調査及び、モニタリングを行い、透析開始・終了時における手指衛生遵守率向上に向けて実施した取り組みについて報告する。

【目的】スタッフ個々が、透析開始・終了時にWHOの5つのタイミングで手指衛生が実施できるようになる。

【方法】本研究はA病院倫理委員会の承認を得て実施した。

1. 対象:浄化センター看護師准看護師 27名
2. 期間:2018年8月15日～11月15日
3. 内容
 - 1) 毎日WHO5つのタイミングの唱和
 - 2) モニタリング(観察できた看護師21名)

・1名ずつ透析開始・終了時を5回観察

- 3) 手指衛生についてのアンケート(前後)
- 4) 擦式手指消毒薬使用状況を個人でグラフ化
- 5) 手指衛生に対する勉強会
- 6) 患者へポスター掲示
- 7) 蛍光塗料を用いた手洗いテスト

【結果】3-2)モニタリング(21名)

1 患者への透析開始・終了時の手指衛生実施回数の平均。擦式手指消毒薬使用者は、実践前後で透析開始時1回が1.6回。終了時0.9回から1.2回へ上昇した。手荒れによる擦式手指消毒薬使用免除者は、透析開始時0回が0.2回。終了時0回から0.2回でほとんど手指衛生をしていなかった。5回の透析開始・終了時で毎回手指衛生を行っている看護師は、実践前後で透析開始時7人から12人、終了時は5人から8人に増加した。遵守率では、「患者の側に行く時」が透析開始時31%から48%、終了時33%から36%。「患者の側を離れる時」が透析開始時22%から47%、終了時20%から38%と向上した。手指衛生447回のうち、94%が擦式手指消毒薬、6%が流水による手洗いであった。

3-3)手指衛生についてのアンケート(27名)自己評価では1患者へ実施している手指衛生の回数は透析開始時2回が33%、3回が26%。終了時は3回が33%、2回が33%であった。各対策について、行動変容に関与した順は①擦式手指消毒薬の個人使用量の掲示、②5つのタイミングの唱和、③開始終了時のモニタリング、④勉強会、⑤アンケート、⑥蛍光塗料を用いた手洗いテスト

ト、⑦患者へのポスター掲示であった。3-4)擦式手指消毒薬使用状況を個人でグラフ化擦式手指消毒薬の個人使用量が少ないスタッフは40代8人、30代が4人であった。擦式手指消毒薬の個人使用量の合計は7月4250ml、11月8125mlと2倍に増加した。

【考察】アンケートによる手指衛生の実施回数の自己評価が高いことがわかった。手指衛生のフィードバックと啓発活動を行ったことで手指衛生遵守率の向上につながった。血液透析は、次々と清潔操作を行う必要があり、体液曝露のリスクも高い。WHOの手指衛生5つのタイミングで毎回手洗いを行う事は困難で、擦式手指消毒薬による手指衛生が中心となっていた。手荒れによる擦式手指消毒薬使用免除者と、ベテランスタッフの手指衛生遵守率向上が今後の課題である。

【まとめ】実践により、透析開始・終了時の手指衛生の回数と遵守率が上昇した。